

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の持てる力や可能性を最大限伸ばす「創造力を育む学校」をめざす。

- 1 地域やグローバルな社会を『たくましく生き抜く力』の基となる「豊かな人間性」の涵養
- 2 地域やグローバルな社会を『たくましく生き抜く力』の基となる「確かな学力」の定着
- 3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒の育成
- 4 自ら学び続ける教師集団の確立

2 中期的目標

1 地域やグローバルな社会を『たくましく生き抜く力』の基となる「豊かな人間性」の涵養

(1) 安全安心な学校生活。

ア 生徒をより深く理解するために、「高校生活支援カード」「個人面談週間(4月・6月・11月)」等を活用する。

また、「学年会議」等で、生徒情報を共有化し、中退やいじめの防止に努める。

生徒の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」(H30の63%を2021年には70%にする)

保護者の「学校は親身になって相談に応じてくれる」(H30の62.7%を2021年には70%にする)

生徒相談室の利用方法を周知する(生徒向け:ポスターの作成や生徒相談だよりの発行。保護者向け:長期休暇中の指導や保護者メールなどによる情報提供)

イ 部活動を通して多くの生徒に成功体験を積ませる。

生徒の「学校は部活動が活発になるよう取り組んでいる」(H30の50.4%を2021年には65%にする)

(2) 主体的に多様な人と協同しながら学ぶ態度を養う。

ア 校外での活動で生徒が活躍できる場を提供する。

イ 基本的な生活習慣の確立。

生徒の「普段から遅刻しないよう心掛ける」(H30の79.9%を2021年には90%にする)

ウ 生徒が学校行事を自主的に企画・運営することで達成感を実感させる。

エ 地域社会や学校の一員としての自覚と責任感を持ち、愛校心及び他者を思いやる心を養う。

コミュニケーション能力については、その向上のために、授業・HR・特別活動、またイングリッシュ・カフェ等の新たな体験的な取り組みなどを活用しながら以下のよう段階を踏む工夫をしながら取り組む。

あいさつ:相手にアクセスする 自分の意志を伝える 相手を理解する 周りの状況が分かり、その中で相手と自分を理解する
社会の規範を理解した上で、社会とコミュニケーションできるようにする。

(3) 学校施設等の諸条件の整備と防災教育。

ア 学校施設等の諸条件の整備。

イ 防災教育や危機管理体制を再構築する。

2 地域やグローバルな社会を『たくましく生き抜く力』の基となる「確かな学力」の育成

(1) 「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」生徒のやる気を引き出す。

ア ICT活用と言語活動をキーワードに、「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」で、生徒のやる気を引き出す。

教員の「ICTを使って授業を展開している」(H30の68.9%を2021年には90%にする)

イ 少人数展開授業をはじめ、各授業や講習、補習の充実を図り、基礎基本の定着に努める。

生徒の「内容がわかりやすい授業が多い」(H30の63.5%を2021年には80%にする)

(2) 生徒に「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の育成。

ア 生徒の多様な学びの要望に応えるカリキュラムや課外プログラムの提供に努める。

イ 生き抜いていく基となる資格取得を進める。

ウ あらゆる科目において、「考える」「まとめる」「発表する」参加体験型のアクティブラーニングを研究する。

生徒の「学校の評価は、テストの点だけでなく、生徒の努力や授業に取り組む姿勢等を含めて行われている」(H30の75.9%を2021年には90%にする)

学校運営協議会の提言を参考にし、人材をうまく活用できるよう、組織作りについては、地域人材、地域の教育資源(各種教育機関等)との連携を意識すると共に、「イングリッシュ・カフェ」などの地域連携企画を継続発展させ、学校・家庭・地域との連携・協働・活性化、小・中・大・専門学校・事業所・関係諸機関とのより一層の連携・協力を通じて効果的な教育活動を行い確かな学力の向上に努める。また、コミュニケーション能力の向上に努める。

1) 大学・専門学校等での授業体験や学生の教育ボランティアの導入などで効果的な学習に取り組める環境づくりと高大連携の推進を図る。

2) インターンシップをより一層充実させるなど、職業指導やキャリア教育の推進を図る。

3) 様々なメディアを活用して教育力向上に努め、家庭・地域・小中学校等への積極的な発信に努める。

4) カリキュラム・マネジメント、授業力の向上のための具体的組織づくりに取り組む。

5) あらゆる科目において、生徒の「考える」「まとめる(統合)」「発表(発信)する」力等の生徒の学びの質の向上に取り組む。特に、授業時間の確保や探究、朝学習などの活性化に取り組む。

3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒を育成

(1) キャリア教育プランの実行。

ア 3年間のキャリア教育プランに基づき、1年次から進路意識の高揚を図り、生徒個々が将来の生き方をデザインする。

生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」(H30の68.1%を2021年には80%にする)

イ 1年次より外に出かけ、進路を意識する機会を提供する。

ウ 「学力向上のためのプロジェクトチーム」の取り組みを通して、将来を見据えて継続的に頑張ることができる生徒を育てる。

<p>エ あらゆる教育活動を活用し、生徒や保護者へのきめ細やかな情報の提供を行う。 生徒の「先生は進路についての情報を良く知らせてくれる」(H30の69.0%を2021年には85%にする)</p> <p>オ 卒業時の進路未決定者の割合を減らす。(H30の12.0%を2021年には0%にする)</p> <p>(2) アセスメントの活用。 ア 基礎教養の定着度や「個々の強み」を知るために、アセスメントを活用し、一人ひとりが持てる力を伸ばし、進路実現を図る。 生徒の「自分の学力の向上を実感している」(H30の56.1%を2021年には70%にする)</p> <p>(3) 入学前から生き方プランを考える機会を提供する。 ア 本校で頑張りたいと思う生徒が入学できるように広報活動を行う。 イ 「スポーツフェスティバル in イズトリ」の継続実施により、様々な活躍の場があることを示す。</p> <p>4 自ら学び続ける教師集団の確立 (1) 授業改善のための学び合い。 ア 外部の力を活用した研修を行い、自ら学び続ける教師集団を育む。 教員の「研究授業を定期的実施している」(H30の6.7%を2021年には60%とする) イ 外部の研修に参加しやすい職場環境を保持し、研修で得た情報や知識を校内研修で共有し還元する。 ウ 授業観察及び相互の意見交換を行うことで自ら授業改善に取り組む。 生徒の「他の先生が授業を見学に来ることがある」(H30の69%を2021年には85%とする)</p> <p>(2) 教員が本校生徒、学校の実情を知る。 ア 情報交換の場を設けることで交流を促す。 教員の「経験の少ない教員と経験豊かな教員の交流を定期的実施」(H30の42.2%を2021年には70%とする) イ ミドルリーダーの自覚を促し、学校の活性化に向けての取組みを立案させる。 教員の「学校教育計画・学校経営計画の重点目標に照らして目標を設定し教育活動を行う」(H30の53.3%を2021年には85%とする)</p> <p>働き方改革に関する取組み・・・教員の業務は、【基本的には学校以外が担うべき業務】【学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務】【教師の業務だが、負担軽減が可能な業務】に分けられると言われている。以上の観点から、本校の業務内容を可視化し整理して、以下のような方策で課題の解決に取り組む。○業務改善の推進(学校行事や会議、打合せ等の見直し、会議や打合せ等の効率化、事務の電子化等の合理化を図る ○部活動の負担軽減(ガイドラインの作成、土日の活動はどちらかにするなどのルール作り) ○勤務時間に関する意識改革と時間外勤務の抑制(出退勤時刻の適正管理、時間を客観的把握と必要に応じた指導・助言、会議や打合せ等が勤務時間外に及ばないように留意するとともに、会議の必要性も含め、見直しを検討する) ○学校を支援する人材の確保(学校の教育活動を支援するボランティア等の外部人材を積極的に活用する・・・教育ボランティアの募集、現在来てもらっているカウンセラーの活用促進、スクールソーシャルワーカーの導入、福祉協議会、NPO 団体などの活用、TNET等の英語専科を担当する教師などの活用、部活動指導員、スクールサポートスタッフなど、多様なスタッフの配置促進) ○学校・家庭・地域及び関係機関等との連携推進(保護者や地域住民等に対する教員の働き方に関する適切な説明) ○登下校に関する対応や勤務時間外での生徒指導等について、学校・家庭・地域及び関係機関(警察・地域企業)との連携を一層強化する体制を構築する)。○学校の重点目標・経営方針に、働き方に関する視点を盛り込み、学校全体で取り組むとともに、P D C Aサイクルを構築し効率的な成果発揮につなげる。教職員には、校長が出した学校重点目標・経営方針を踏まえ、自己申告シートに働き方に関する視点を盛り込ませる。学校評価において重点的な評価項目の一つとして、業務改善や教職員の働き方に関する項目を明確に位置付け、自己評価、学校関係者評価、第三者評価を実施する。</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[2019年12月実施]	学校運営協議会からの意見														
<p>学校経営計画が、どのように取り組んでいるかが分かるよう各質問項目を選び、経年変化を考察する。(生：生徒 教：教員 保：保護者)あてはまる%</p> <p>1 確かな学力</p> <table border="0"> <tr> <td>わかりやすい授業を拡充・展開する</td> <td>R1年(30年)(29年)</td> </tr> <tr> <td>生「自分の学力の向上を実感している」</td> <td>49% (56%) (61%)</td> </tr> <tr> <td>教「授業は、基礎学力の向上に重点を置いている」</td> <td>96% (82%) (80%)</td> </tr> <tr> <td>保「高校生としての学力がついてきていると感じる」</td> <td>57% (47%) (56%)</td> </tr> </table> <p>生徒の意見で、内容が分かりやすい(64%)、教え方の様々な工夫(67%)、公平な評価(72%)など教員の努力は評価されてきている。少人数、ICTの活用、参加体験型の導入など、意欲がわくように工夫している。教員の実感や手ごたえは上昇している。また、保護者の実感も上がっているが、生徒の実感は下がっている。生徒の求める学力と教員・保護者の求める学力に乖離がみられる可能性がある。今後、生徒の必要とするもの、社会が必要とするものをしっかり見極めてカリキュラムをマネジメントしていく必要もある。この点については、学校運営協議会でも指摘された。</p> <p>2 安全安心な学校 生徒に寄り添う生活指導 R1年(30年)(29年)</p> <table border="0"> <tr> <td>生「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」</td> <td>59% (63%) (63%)</td> </tr> <tr> <td>教「教職員は生徒の意見をよく聞いている」</td> <td>84% (80%) (67%)</td> </tr> <tr> <td>保「学校は、親身になって相談に応じてくれる」</td> <td>69% (63%) (53%)</td> </tr> </table> <p>今年度も懇談会や「支援カード」等を活用しながら丁寧な指導につとめた。教員・保護者の肯定的割合が増加した。中でも、教員の回答が今年度も増加した。保護者に対する丁寧な働きかけが徐々に結果となっているのであろう。因みに、3年生生徒の肯定的割合は、73%である。低学年で厳しく、特に今年の1年生は課題も多く厳しく接してきたと思うが、本校の傾向として学年を経る(高学年になる)にしたがって多くの項目について、肯定的割合が高くなってきているように観察される。それぞれの学年独自の傾向か、年次変化があるのかをしっかりと見極め指導の内容を深めていく必要があると考える。</p>	わかりやすい授業を拡充・展開する	R1年(30年)(29年)	生「自分の学力の向上を実感している」	49% (56%) (61%)	教「授業は、基礎学力の向上に重点を置いている」	96% (82%) (80%)	保「高校生としての学力がついてきていると感じる」	57% (47%) (56%)	生「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」	59% (63%) (63%)	教「教職員は生徒の意見をよく聞いている」	84% (80%) (67%)	保「学校は、親身になって相談に応じてくれる」	69% (63%) (53%)	<p>本年度の協議依頼事項 生徒の持てる力や可能性を最大限伸ばす「創造力を育む学校」</p> <p>1.地域やグローバルな社会を「たくましく生き抜く力」の基となる「豊かな人間性」の涵養 (1)安全安心な学校生活 (2)主体的に多様な人と協働しながら学ぶ態度を養う (3)学校施設等の諸条件の整備</p> <p>2.地域やグローバルな社会を「たくましく生き抜く力」の基となる「確かな学力」の育成(1)「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を味わわせ、生徒のやる気を引き出す。(2)生徒に「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を育成する。</p> <p>3.将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒の育成(1)キャリア教育プランの実行 (2)入学前から生き方プランを考える機会を与える(適切な広報活動)</p> <p>4.自ら学び続ける教師集団の確立</p> <p>第1回 令和元年6月14日(金) 15:00~17:00 ・きめ細かく指導していくために、単元ごとにテストや小テストを実施していくことについては、肯定的意見が多かった。知識、理解力が付けば良いというわけではなく、知識を付けて、テストでいい点を取って、いい大学に進学すれば、社会で活躍できる人に必ずなるかというわけではない。自ら考え、問題解決ができる人を育成するために、入試制度も変わってきている。マニュアル的な事しかできないのではなく、どのような人物に育てていきたいかを考えて、自ら考えて行動できるような人に育てるために根本から指導の在り方を考えていくべきである。 ・ソーシャルキャピタルという考え方では、「協働的な領域」というものがあり、信頼し合っている集団ということが挙げられている。このような集団の中では学力は高くなる。生徒が協力し合っていて、盛り上がった体育祭を行えたと言っていたが、このような体育祭や文化祭などの行事は効果的である。成果を上げる社員集団には「ワークエンゲージメント」の高い集団がある。活力があり、熱意があり、没頭して仕事をしているかということが尺度であり、これらが高いと仕事の成果が高い。学校教育にもこの考え方を取り入れてやっていくべきである。 ・ベネッセのテストの学力を見ると、2年生の学力は、数学 英語の順から、英語 数学となっている。昨年度から実施されている English Caféにより、楽しく英語を勉強していることが考えられる。English Caféに参加している生徒の英語の成績がどのくらい伸びたのかをモニタリングす</p>
わかりやすい授業を拡充・展開する	R1年(30年)(29年)														
生「自分の学力の向上を実感している」	49% (56%) (61%)														
教「授業は、基礎学力の向上に重点を置いている」	96% (82%) (80%)														
保「高校生としての学力がついてきていると感じる」	57% (47%) (56%)														
生「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」	59% (63%) (63%)														
教「教職員は生徒の意見をよく聞いている」	84% (80%) (67%)														
保「学校は、親身になって相談に応じてくれる」	69% (63%) (53%)														

府立泉鳥取高等学校

3 将来の生き方デザイン 1年からの系統的なキャリア教育 R1年(30年)(29年)

生「1年の頃から進路に関心を持てる授業が行われている」	61%	(62%)	(66%)
教「学校は1年からキャリア教育の目標を設定し、実践している」	55%	(69%)	(67%)
保「懇談等で1年次から進路に関して具体的に先生と話している」	59%	(55%)	(53%)

1年からのキャリア教育については、保護者の肯定的意見が増加をしている。教員間での情報共有を心掛けるとともに対応は丁寧に行っているが、生徒への浸透は伸び悩んでいる。保護者からの回答では肯定的意見は増加傾向にあるが、さらに丁寧な働きかけや心に残る仕掛けを工夫する必要があるだろう。参加体験的な内容に取り組んでいく必要もあるだろう。

4 教員の育成(資質向上) 校内教員研修の充実 R1年(30年)(29年)

生「他の先生が授業を見学にくることがある」	67%	(60%)	(66%)
教「研究授業を定期的実施している」	7%	(7%)	(11%)
保「先生は、一社会人として適切な対応ができています」	69%	(67%)	(62%)

今年度は、アンケートの質問項目からは除外したが、授業力の向上をめざして、初任や10年目の教員の研究授業は各学期で最低1回以上実施し、意見交換や交流を実施した。また、英語科では教科として研究授業に取り組んだ。管理職もなるべく頻繁に授業観察を実施し、フィードバックを行った。授業を受けやすい環境に配慮したという項目の肯定的意見は86%に上り、各教員も個々に努力を重ねている。今年度、保健部や教育相談などで自発的に教職員研修を実施し有効な研修になったが、さらに工夫し推進していく必要があるだろう。

その他の特筆すべき結果

重点項目の周知・説明に昨年度より力を入れた結果、53% 67%と増加した。さらに100%に近づき全校一丸となって課題に取り組めるようリーダーシップを発揮していくことが必要である。

昨年度の保護者の回答と比較して、26項目のうち19項目で肯定的割合が増加した。特に高校生としての学力がついてきている(47% 56%)、評価が公平である(65 71)や文化祭・体育祭(54 64)などの行事が楽しくなるように工夫されている、などの項目の伸びが大きかった。「進路情報」についての項目においても順調な伸びを示しているように見られた。「生徒相談室」の利用方法については低い値のまま(24%)だったので、直ちに周知徹底させる資料配布と担任からの説明を行うなど具体的な対応を実施した。今までやっていなかったわけではないので頻度を上げて周知を徹底し認知度を高めていきたい。

「部活活性化」については、運動部のみでなく、文化部の活性化にも努めて現状を少しでも向上させる取組を地道に進めていく必要がある。さらに、運動部より文化部、既存の部活動より新たな分野、例えば、AIクラブやe-スポーツといったものを推進するなど発想の転換並びに生徒のニーズを見極めていく必要があるだろう。

「学力向上」については、授業のわかりやすさ、教え方の工夫、生徒の努力や取り組む姿勢、評価の公平性など前向きに進展している。さらなる向上をめざしていきたい。

進路指導については、1年生から意図的・継続的に行っている。生徒の意識の向上につながっていると考えられるが、さらに低学年より計画的かつ継続的に取り組んでいきたい。生徒の成長を計画的に実施するための「イズトリ」スタンダードの修正・改編など、より充実した学習計画を展開することにより自己肯定感や自己重用感、基礎・基本の徹底、高校生として恥ずかしくない人間性の涵養や学力向上へ取り組んでいきたい。

本校の教員は、生徒に親身にかかわり、話や相談もしやすい努力は、してきてくれている。より一層の生徒・保護者・教員の結びつき・絆・連携を高め保護者との信頼関係構築を図りたい。

次年度は、アンケートの質問項目の工夫などにより、さらに学校経営の重点課題が明確になるような目標設定、成果の見える化に努めたい。

ると良いのかもしれない。一夜漬けの勉強は成果が得られにくく、楽しく勉強して、小テストを細かく行っていた内容は今も覚えている。よって単元テストを細かく行うというのはいい案であると考えている。泉鳥取生が小学生や中学生に勉強を教えるにいったという報告があったが、エリック・エリクソンによると、誰かに勉強を教えることで自分が必要とされているという感覚が芽生え、これにより豊かな人間性のある人を育むことにつながる可能性がある。リアクションペーパーというものを書かせてはどうか。テストの点数だけではなく、自己評価(〇〇がこれくらいできた、今日は〇〇ができた)を自分で書く効果的である。

(議長まとも)様々な提言やそれに関する質問や注意点など多くの意見が出た。単元テストに移行するという案は、既存の教育に風穴を開ける可能性があり、今後も協議員で話し合いながら行っていった欲しい。

第2回 令和元年11月8日(金) 15:00~17:00 「魅力的な学校に向けて…」

・まずは意欲や関心を持つ基盤的な力を養わなければならない。生徒が興味や関心を持ち、自ら行動・活動することで得られる達成感や成就感を元に、新たなことに挑戦していくというサイクルを作るための仕掛け・仕組み作りが必要だ。

・生徒は非常に素直だ。小さな子どもたちに目線を合わせ寄り添い、一生懸命に接してくれる。誰でも興味があることには積極的に取り組む。eスポーツやドローンのような、生徒の興味や関心を基にした取組み、女子生徒であればメイクやファッションなど。生徒たちが興味を持っているものを切り口として、基礎学力や学びに向かう力に繋いでいけると良いと思う。興味・関心をできるだけ体験に繋げることが良い。考えたことを体で表現する、体験する、ということは学習には非常に重要なことである。

・近隣の方々に食堂を開放されていたり、救急救命講習に招いたりして、地域に密着しているのが伝わってきた。このつながりを利用して何かの活動に展開できれば点が面になるのではないかと。生徒へのメリットや地域へのメリットは大きい。食材の提供に地元農家や地元企業、生協などとのつながりも増え、多くの連携を図ることができるのではないかと。阪南市唯一の高校ということで、学校を閉鎖的な空間にするのではなく、地域のコミュニティーの場のような形でもう少しオープンにできればいいと思う。それにより、生徒が様々な人とふれあい、様々な経験ができるのではないかと。学校を開放することにより地域の人に泉鳥取高校のことを良く知ってもらうこともでき、ともに生徒を育てていこうとする人が増え、より良い学校にして行こうという機運も高まるのではないかと。先生方の負担が大きくなるかもしれないが、開放的な学校にすることにより、学内で様々な体験経験ができるということは生徒にとって良い学びになり、魅力的な学校にもなるのではないかと。興味あることに対して、意欲を高めて体を使って体験し、力をつけてだんだんとステージをあげて行く、それが将来の自分の進路につなげてゆけるような学びのシステムを作ればいいと思う。

(まとも)興味関心を生かして体験できる活動が多く行われている中で、それを積極的に生徒が参加して、どんどん次の段階につなげていければより良い学校となると思う。しかし、その途中には多くのハードルがあり、様々なことを一つずつクリアしていかなければならない。理想は全生徒が自己実現できることである。体験するということが非常に大事で、それを核にして点から線に、線から面に展開することも重要である。今行っている取組をそういった形で広げて行くことが泉鳥取高校の魅力になるのではないかと。

第3回:令和元年1月24日(金)15:00~17:00

・肯定的意見の高い項目:授業のわかりやすさ(近年も上昇傾向)、教え方の工夫、生徒の努力をみとめてくれる、体育祭、文化祭の工夫など。低い項目:生徒相談室の利用法を知っている。

直ちに生徒へ紹介する。部活動をしている。本校としては部活動生が少ないというのは悩ましい問題であり、運動部よりも文化部の方が盛んな傾向がある。全体として、授業などで工夫をして授業をしていることについては生徒に伝わっているが、それらが生徒の学力が向上したという実感までは届いてはいない。このギャップを埋めていく必要がある。

(提案)

学力が向上したと実感できているという生徒が少ないというデータに関して、その層をブレイクダウンしてはどうか。どのような生徒がそう感じているのか、特徴(朝食は食べているかなど)を調査し、その層へボトムアップしたら改善されるかも。遅刻をしないように、授業終わりに次の授業の準備を徹底させることにより遅刻が減った。保護者に学校の事を知ってもらいたいという事に関して、成績が伸びた生徒や成績が良かった生徒を表彰するのはどうか。「学校スタンダード」を十分に活かして1~3年の指導へ活かすのはどうか。

見える学力は点数である。見えない学力は人間性だ。点数だけとってきた子は高校に入ってから伸びない場合もある。今まで課された課題のみをこなしてきた子は受け身であることがある。点数を取ることができるだけでは限界がある。自分で考えて、何をしたいか、何になりたいのかを考えて行動していくべきである。このような見えない学力が大切だ。

高校は出口である。このような目標があるから、この高校に進学しようというようにどのように成長するのか、という出口をしっかりと整える必要がある。そうすれば、周りの人々にはわかりやすい。また、具体的なデータを示すと良い。本校に入ったら学力がどのように伸びるかということグラフで明確に見える形で示す。

(まとも)一般的には2年生が中だるみという現象で学力が一番低くなるが、本校は、学年を追うごとに学力は伸びる場所である。本校に来たらどのように成長できるのかを具体的に、グラフやモノを使って示すことが効果的だと思う。工夫を凝らし他の高校とは違う独自の面を磨き、さらに良い泉鳥取高校をめざすと良いと思う。着実に成果が見られている取組みはあった。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 地域やグローバルな社会を『たくましく生き抜く力』の基となる「豊かな人間性」の涵養</p>	<p>(1) 安全安心な学校生活。</p> <p>(2) 主体的に多様な人と協働しながら学ぶ態度を養う。</p> <p>(3) 学校施設等の諸条件の整備と防災教育</p>	<p>(1) ア 新入生に「高校生活支援カード」を「個人面談週間」等で活用しながら保護者との連携を密にし、生徒の理解を深める。</p> <p>イ 新入生に「部活動体験」を工夫する等、部活動加入率の向上を図る。</p> <p>ウ 生徒自身が学校を大切に思い、清潔で快適な学校生活を送れるよう努力する。また、安全安心に配慮しながら校外学習や修学旅行なども工夫する。</p> <p>(2) ア 年間を通してボランティア等への積極的な参加を推進する。</p> <p>イ 生徒への声掛けを励行する。また、教員が登下校時の指導・見守りに当たるなど遅刻防止等の指導方法を検討する。それらのことにより、生徒の規範意識を高めるとともに遅刻者数を減らす。</p> <p>ウ 学校行事で生徒が前面に立った運営を行う。</p> <p>エ 「乗車マナーキャンペーン」「地域清掃」「農園活動」等の継続実施で地域とのつながりを密にする。</p> <p>(3) ア 基本的な施設の点検、改修等を継続する。また、継続して進路指導室の充実を図る。</p> <p>イ 災害等に備える知識と対応する力を生徒が身に付けるための防災教育に取り組む。</p>	<p>・学校教育自己診断</p> <p>(1) -ア 生徒の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」70%以上(H30 62.8%) 保護者の「学校は親身になって相談に応じてくれる」60%以上(H30 62.7%)</p> <p>(1) -イ 部活動加入率の10%増加(H30 20.6%)</p> <p>生徒の「学校は部活動が活発になるよう取り組んでいる」60%以上(H30 50.4%)</p> <p>(1) -ウ 生徒の「自分は掃除に積極的に取り組んでいる」80%以上(H30 66.8%)、また、校外学習や修学旅行等での工夫</p> <p>(2) -ア ボランティア活動等に200人以上の生徒が参加(H30 150名)</p> <p>(2) -イ 生徒の「普段から遅刻しないよう心掛ける」90%以上(H30 79.9%)</p> <p>遅刻者数の10%減少(H30.1 のべ8926名)</p> <p>(2) -ウ 行事運営に100人以上の生徒が関与するとともに生徒の「学校へ行くのが楽しい」70%以上(H30 64.2%)</p> <p>(2) -エ 各種事業の継続実施(H30 12事業)</p> <p>(3) -ア 施設の老朽化に伴う未改修箇所を減少させるとともに迅速な対応を行う。また、計画的な整備を行う</p> <p>(3) -イ 防災について学習する機会を年2回</p>	<p>(1) -ア 生徒の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」R1 59.2%() 保護者の「学校は親身になって相談に応じてくれる」R1 59.2%()</p> <p>(1) -イ 部活動加入率21.1%()</p> <p>生徒の「学校は部活動が活発になるよう取り組んでいる」41.8%()</p> <p>(1) -ウ 生徒の「自分は掃除に積極的に取り組んでいる」R1 60%()</p> <p>また、校外学習の行き先や修学旅行(海外)生徒の現状に合わせた取組み、本校初の海外修学旅行()</p> <p>(2) -ア ボランティア活動等に200人以上の生徒が参加R1のべ約100名()</p> <p>(2) -イ 生徒の「普段から遅刻しないよう心掛ける」R1 78%()</p> <p>遅刻者数の10%減少(R1 8574名)</p> <p>(2) -ウ 行事運営に100人以上の生徒が関与するとともに生徒の「学校へ行くのが楽しい」3年R1 74%()</p> <p>全学年62.3%()</p> <p>(2) -エ 各種事業の継続実施と今年度より食堂の地域への開放、地域の方々との共同防災訓練の実施、駅や地域広報板への本校広報紙の掲示R1 12事業()</p> <p>(3) -ア 施設の老朽化に伴う未改修箇所(校舎壁面の剥がれ、校舎内天井の穴)を減少させるとともに迅速な対応を行う。また、浄水器や蛍光灯(LED)への変更計画的な整備を行う()</p> <p>(3) -イ 防災について学習する機会を年2回(6月・9月に防災訓練)()</p>
<p>2 地域やグローバルな社会を『たくましく生き抜く力』の基となる「確かな学力」の定着</p>	<p>(1) 「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」生徒のやる気を引き出す。</p> <p>(2) 生徒に「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の育成。</p>	<p>(1) ア 「学校経営推進費」事業等を活用しICT環境整備に努めるとともに「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を味わえる、本校に適した授業方法を研究する。</p> <p>イ 各授業や講習、補習の充実を図りながら、基礎基本の定着に努める。</p> <p>(2) ア 総合的な学習の時間が進路指導に結びつくよう基礎学力、教養を身に付けさせる。</p> <p>イ 担任、学年団及びPTA等の協力を仰ぎながら英検等の資格試験を推奨する。</p> <p>ウ 授業規律を大切に「考える」「まとめる」「発表する」参加体験型のアクティブラーニングを踏まえて教え方を研究する。</p>	<p>・学校教育自己診断</p> <p>(1) ア 「学校経営推進費」事業等を活用しICT環境整備(全ホームルーム教室)に努めるとともに「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を味わえる、本校に適した授業方法を研究する。</p> <p>(1) イ 放課後、夏・冬の休業中に計画的で効果的な講習、補修の実施に努める。</p> <p>(2) -ア 生徒の「総合学習は進路に結びついている」70%以上(H30 61.0%)</p> <p>(2) -イ 英検の受検者数を30名増加(H30 25名)</p> <p>(3) -ウ 先生の「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」75%以上(H30 68.6%)</p>	<p>(1) ア 「学校経営推進費」事業等を活用しICT環境整備(全ホームルーム教室)に努めるとともに「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を味わえる、本校に適した授業方法を研究する。(全HRには整備できたが、展開教室等には未整備、現存のプロジェクター活用は進んでいる()</p> <p>[ICT活用している教員73%]()</p> <p>(1) イ 放課後、夏・冬の休業中に計画的で効果的な講習、補修の実施に努める。(ICT等活用して取り組んでいる)()</p> <p>(2) -ア 生徒の「総合学習は進路に結びついている」R1 54.8%()</p> <p>(2) -イ 英検の受検者数を30名増加R1 約25名()</p> <p>(3) -ウ 先生の「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」75%以上R1 67.8%()</p> <p>[3年生は、81%]()</p>

府立泉鳥取高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒の育成</p>	<p>(1) キャリア教育プランの実行。</p> <p>(2) アセスメントの活用。</p> <p>(3) 入学前から生き方プランを考える機会を提供する。</p>	<p>(1)ア 1年次より系統立てて、生徒個々が将来の生き方を考える機会を与える。</p> <p>イ 大学等オープンキャンパス、インターンシップ、職場体験、看護体験等への参加を促す。</p> <p>ウ 「学力向上のためのプロジェクトチーム」を再編成する。また、進路意識の高い生徒の学習の場を保障するため進学者向け講習会や合宿等を検討する。</p> <p>エ 「進路だより」等を継続して、生徒や保護者への情報の提供を行う。</p> <p>オ 粘り強い指導を続け進路未決定者を減少させる。</p> <p>(2)ア アセスメントの結果を個人面談や進路ホームルーム等で用いることにより、生徒は自分の基礎教養の定着度や「個々の弱み強み」を知る。</p> <p>(3)ア 将来の生き方をデザインし、本校で頑張りたい、と思う生徒が入学できるように広報活動の諸条件を整備する。</p> <p>イ 「スポーツフェスティバル in イズトリ」実行委員会では本校に合致した内容を検討し充実を図る。</p>	<p>(1)-ア 生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」75%以上(H30 68.1%)</p> <p>(1)-イ 大学等オープンキャンパスで100名を超え、インターンシップ等への参加者の10%増加(H30 110名)</p> <p>(1)-ウ 進学希望者への対応。また、大学、短大進学者数の10%増加(H30.1 50名)</p> <p>(1)-エ 生徒の「先生は進路についての情報をよく知らせてくれる」85%以上(H30 69.0%)</p> <p>保護者の「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」65%以上(H30 50.7%)</p> <p>(1)-オ 進路未決定者率の5%減少(H30 11%)</p> <p>(2)-ア 個人面談は年3回、進路ホームルームでは年1回、結果を活用する。</p> <p>(3)-ア オープンスクール参加中学生の5%増加(H30 150名)及びイズトリだよりを発行する。</p> <p>(3)-イ スポーツフェスティバルの参加中学生数の3%増加(H30 250名)</p>	<p>(1)-ア 生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」R1 69.9% ()</p> <p>(1)-イ 大学等オープンキャンパスで100名を超え、インターンシップ等への参加者の0.9%減少R1 95名()</p> <p>(1)-ウ 進学希望者への対応。また、大学、短大進学者数の10%増加R1 50名()</p> <p>(1)-エ 生徒の「先生は進路についての情報をよく知らせてくれる」R1 全学年平均65.8%()3年生83%()保護者の「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」R1 58%()</p> <p>(1)-オ 進路未決定者率の5%減少R1 5%()</p> <p>(2)-ア 懇談習慣は年間2回、その他に各担任で、個人面談は年3~5回程度は実施。進路ホームルームでは年1回、結果を指導等に活用している。()</p> <p>(3)-ア オープンスクール参加中学生の5%増加(第1回は、台風で中止するも、第2回で約200名参加X)及びイズトリだよりを発行する(各学期ごとに1~2回、年間計5回)。</p> <p>(3)-イ スポーツフェスティバルの参加中学生数の3%増加 R1 500名 ()</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 自ら学び続ける教師集団の確立</p>	<p>(1) 授業改善のための学び合い。</p> <p>(2) 教員や保護者が本校生徒、学校の実情を知る。</p>	<p>(1)ア 年3回以上の研修会を開催する。</p> <p>イ 近隣の学校、教員等とも連携をとり、得た情報や知識を報告する機会を設けその成果を共有する。</p> <p>ウ 授業見学の機会を増やすことにより、自己の授業改善に活かす。</p> <p>エ 全国等で開催される講演・研修会や先進的な取組みをする学校・PTA・部活動等に出向き研修する。</p> <p>(2)ア 経験の少ない教員と経験豊かな教員との情報交換をする場を定期的に設ける。</p> <p>イ 「学力向上のためのプロジェクトチーム」の提言を取り入れていく。</p> <p>ウ 教員は、生徒等の実情を理解する。言葉遣いや丁寧な対応で、人権を尊重しながら適切に対処する。</p>	<p>(1)-ア 研修会を開催し資質向上に努める。教員の「研究授業を定期的実施している」20%以上(H30 6.7%)</p> <p>(1)-イ 学期ごとに1名以上が報告</p> <p>(1)-ウ 生徒の「他の先生が授業を見学に来ることがある」70%以上(H30 65%)</p> <p>(1)-エ 管外研修等を5人以上が実施する。</p> <p>(2)-ア 教員の「経験の少ない教員と経験豊かな教員の交流を定期的実施」50%以上(H30 42.2%)</p> <p>(2)-イ 教員の「学校教育計画・学校経営計画の重点目標に照らして目標を設定し教育活動を行う」80%以上(H30 53/3%)</p> <p>(2)-ウ 保護者の「先生は一社会人として適切な対応ができている」70%以上(H30 67.3%)</p>	<p>(1)-ア 研修会を開催し資質向上に努める。教員の「研究授業を定期的実施している」R1 7.0%()</p> <p>(1)-イ 学期ごとに1名以上が報告</p> <p>和歌山大学、大阪観光大学等とは連携。朝日幼稚園との交流あり。</p> <p>(1)-ウ 生徒の「他の先生が授業を見学に来ることがある」R1 66.7%()</p> <p>3年生は75.5%()</p> <p>(1)-エ 管外研修等を4人以上が実施する。()</p> <p>(2)-ア 教員の「経験の少ない教員と経験豊かな教員の交流を定期的実施」R1 50.0%()</p> <p>(2)-イ 教員の「学校教育計画・学校経営計画の重点目標に照らして目標を設定し教育活動を行う」R1 66.0%()</p> <p>(2)-ウ 保護者の「先生は一社会人として適切な対応ができている」R1 68%()</p>